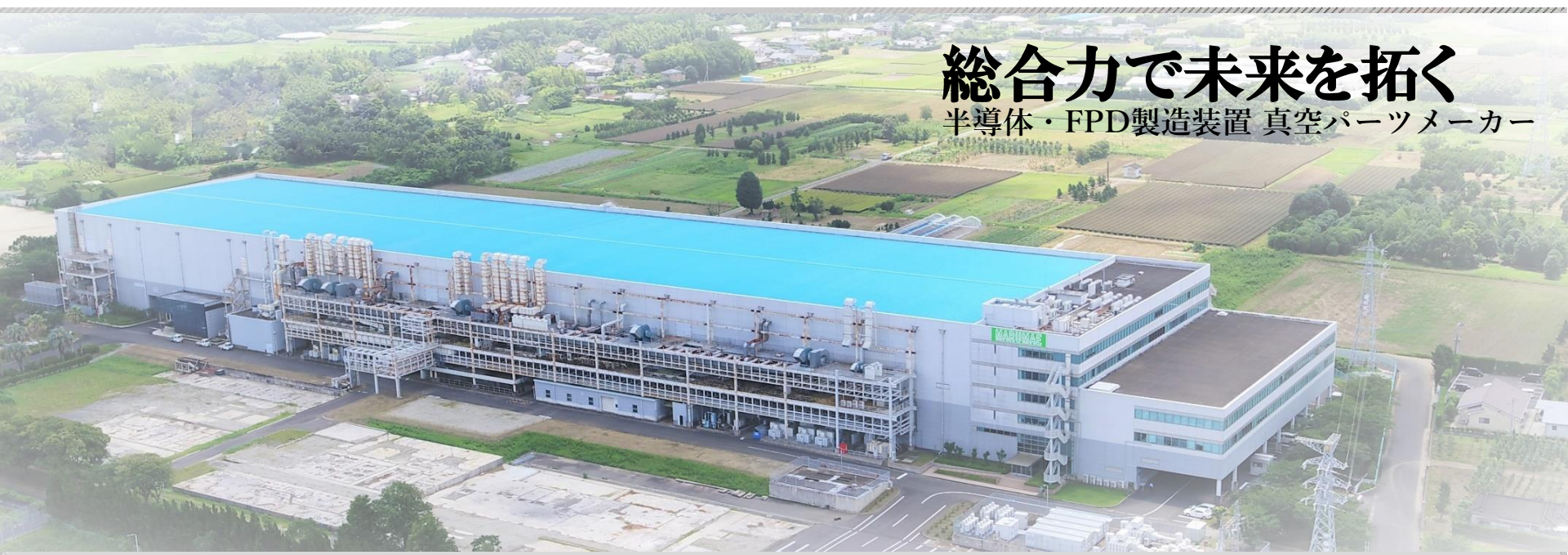


東証(TSE):6264

株式会社マルマエ
2021年8月期決算 補足資料

2021年10月8日

総合力で未来を拓く
半導体・FPD製造装置 真空パーツメーカー



1. 決算概要

PL分析

PL

	2020年8月期 累計期間		2021年8月期 累計期間		対前年同期 増減率 (%)
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)	
受注高	4,346	—	6,241	—	43.6
受注残高	791	—	1,804	—	128.1
売上高	4,388	100.0	5,369	100.0	22.4
売上原価	3,008	68.5	3,552	66.2	18.1
売上総利益	1,380	31.5	1,817	33.8	31.7
販売管理費	483	11.0	610	11.4	26.0
営業利益	896	20.4	1,207	22.5	34.7
経常利益	834	19.0	1,200	22.4	43.9
特別損益	142	3.3	22	0.4	△84.4
当期純利益	690	15.7	902	16.8	30.7
EPS (円)	53.34	—	70.51	—	32.2

Point

① 受注状況

- 半導体分野：4,850百万円
(対前年同期：43.1%増)
- FPD分野：1,160百万円
(対前年同期：24.3%増)
- その他分野：229百万円
(対前年同期：923.4%増)

② 売上高

- 対前年同期22.4%の増加
- ※分野別の詳細は次頁

③ 売上原価・売上総利益

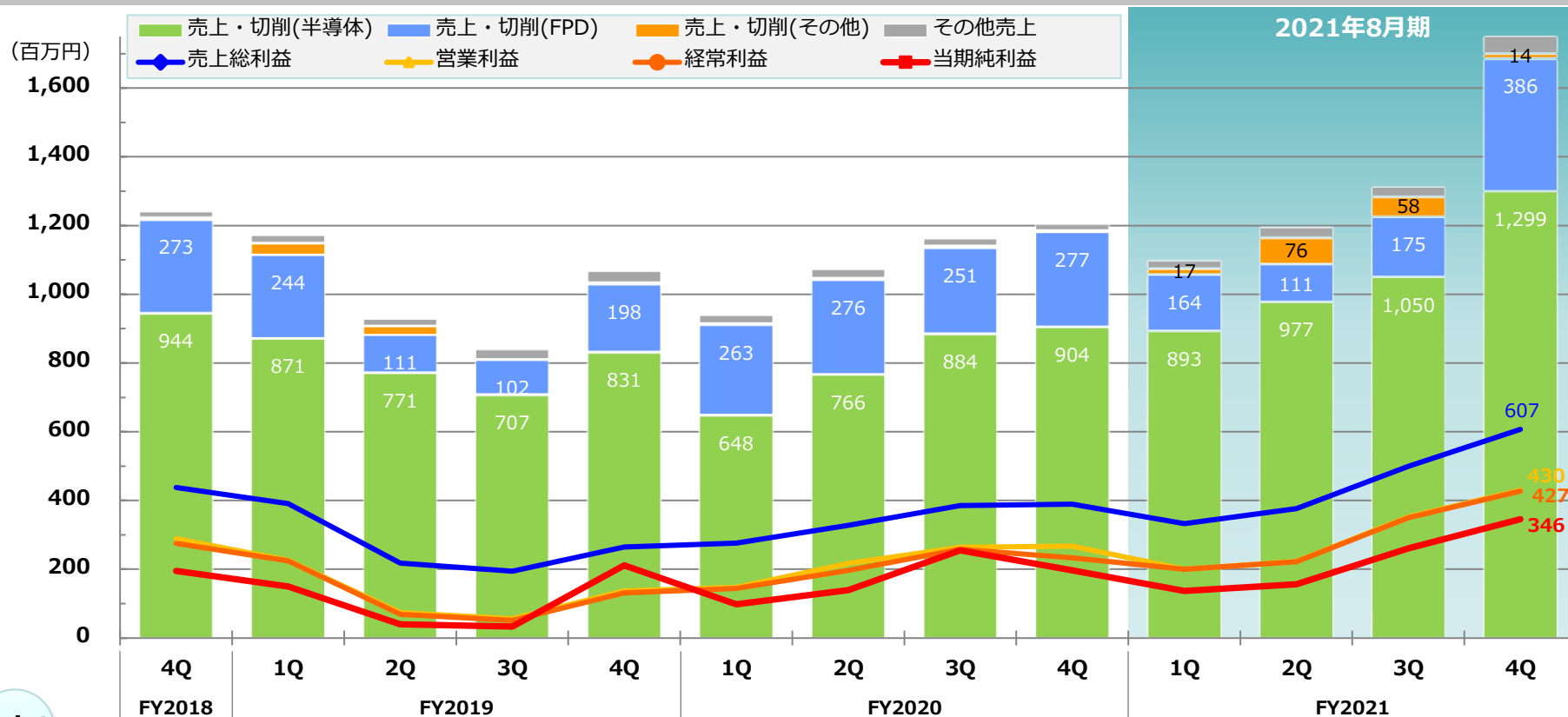
- 材料費：192百万円増加
(対前年同期：29.4%増)
- 外注加工費：153百万円増加
(対前年同期：29.9%増)
- 労務費：178百万円増加
(対前年同期：19.4%増)
- 減価償却費：67百万円増加
(対前年同期：13.2%増)

④ 販売管理費

- 販管人件費：64百万円増加
- 研究開発費：33百万円増加

1. 決算概要

四半期業績の推移



Point

①売上高は、半導体分野過去最高でFPD分野は回復

- 半導体分野：4,221百万円（対前年同期：31.8%増）
 - ・半導体分野は市場環境良く四半期過去最高更新
- FPD分野：838百万円（対前年同期：21.5%減）
 - ・市場改善とEBW（電子ビーム溶接）で売上回復

■その他分野：168百万円（対前年同期：693.3%増）

- ・半導体分野とFPD分野に注力し、その他分野は外注を活用しながらも抑制傾向

②損益面は売上高増加に伴い向上

- ・当期純利益902百万円（対前年同期：30.7%増）

※グラフは四半期毎の会計期間の数値ですが、Pointのコメントは当期の累計期間の数値となっております。

1. 決算概要

B/S分析

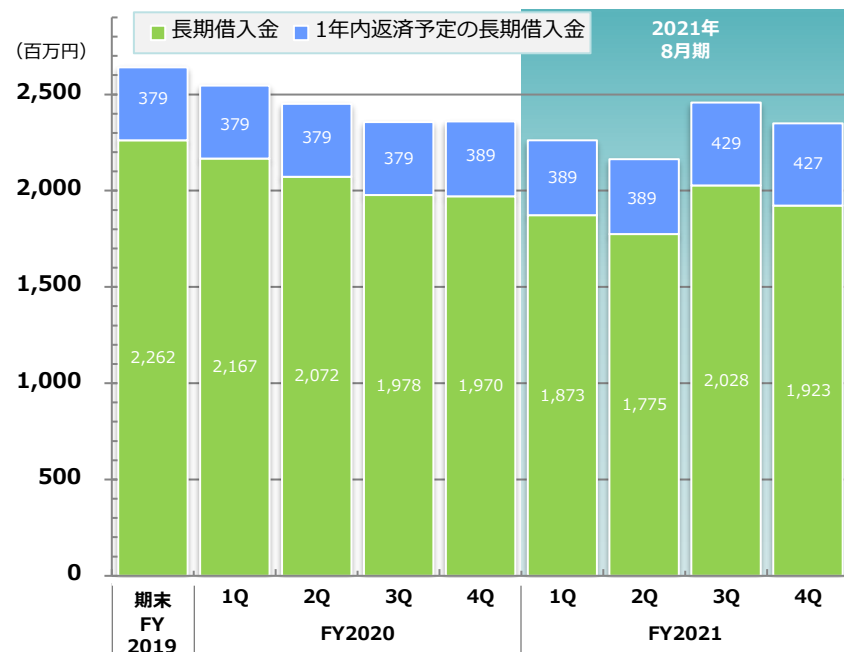
B/S

	2020年8月期 会計年度末 (百万円)	2021年8月期 会計年度末 (百万円)
流動資産	4,369	4,813
現金及び預金	2,540	2,505
売上債権 (受取手形・売掛金・電子記録債権)	1,376	1,685
たな卸資産	438	597
固定資産	4,524	4,929
建物・土地	2,359	2,358
機械及び装置	1,775	2,273
流動負債	1,183	1,452
有利子負債(短期)※	389	427
固定負債	2,004	1,963
長期借入金	1,970	1,923
負債合計	3,188	3,415
純資産合計	5,706	6,327
総資産	8,894	9,742

※ 有利子負債(短期)：短期借入金+1年内返済予定の長期借入金

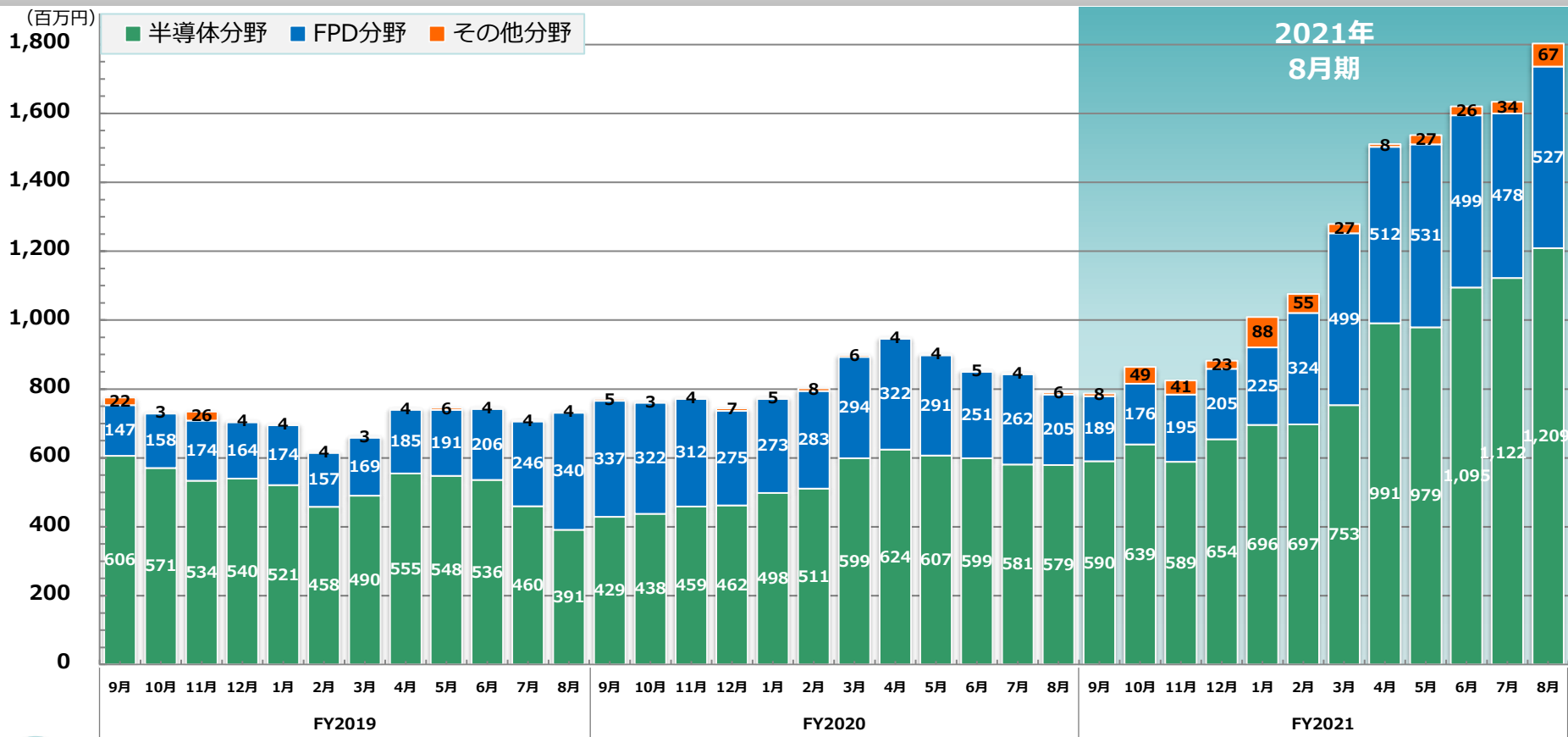
Point

- ① **資産：9,742百万円(前期末比:848百万円増加)**
 - 機械及び装置：498百万円増加
 - 売上債権：309百万円増加
- ② **負債：3,415百万円(前期末比:227百万円増加)**
 - 未払金：185百万円増加
 - 買掛金：133百万円増加
- ③ **純資産：6,327百万円(前期末比:621百万円増加)**
 - 配当金の支払い：281百万円
 - 利益剰余金：621百万円増加
 - 自己資本比率：64.2%→64.9%



2. 事業環境

月次受注残高の推移



Point

- 半導体分野：市場の全面的な好調に加え、新規顧客からの受注増加
- F P D 分野：G6 OLED（有機EL）向けに加え、G10.5液晶回復。シェア拡大も受注回復に寄与
- その他分野：自社自動化設備装置の受注に加え、太陽電池製造装置向け復活

※当社の受注は、案件ごとに長短さまざまなリードタイム（LT）があり、LTの長い案件が多いと売上高に比べ受注残が多めで、LTが短い案件が多いと売上高に比べ受注残は低めに表れます。

2. 事業環境

今後の販売分野別の環境と方針等

半導体分野

- ◆ 全般的に好調ななかロジック投資の拡大継続
- ◆ ロジック拡大に伴い新規顧客からの量産受注が増加
- ◆ 市場拡大とシェア拡大へ積極的設備投資で対応

FPD分野

- ◆ 市場環境は回復しG6 OLED拡大は継続
- ◆ G10.5液晶投資も再始動 G8 OLED動きあるも未受注
- ◆ 市場回復で足元は生産能力ひっ迫 協力企業活用方針

その他分野

- ◆ 太陽電池向け引き合い増加傾向
- ◆ 複数案件受注見込みも生産余力無く、外注活用

3. 2022年8月期の業績予想

来期の見通し（損益・設備投資・固定費要因）

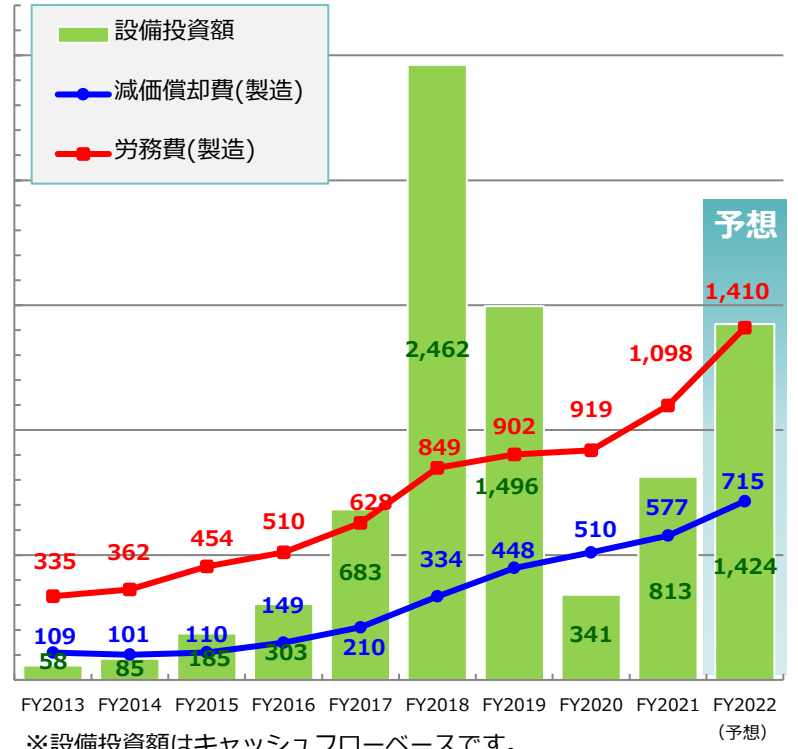
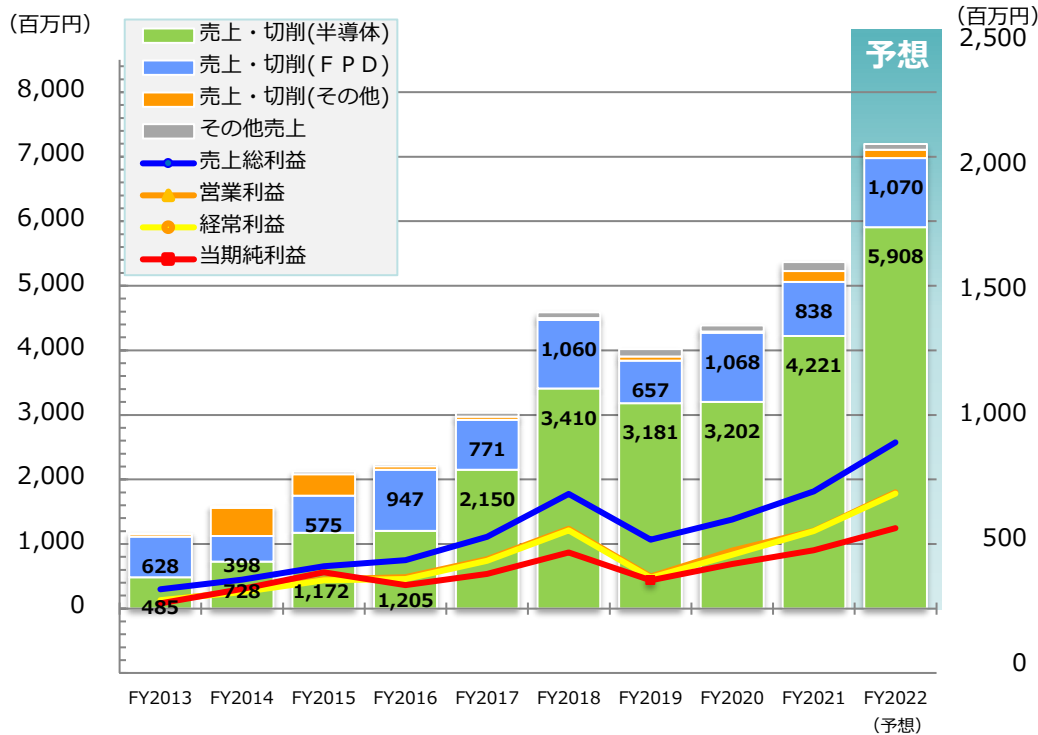
業績
予想

2022年8月期 業績予想	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	純利益 (百万円)	1株当たり 純利益(円)
第2四半期(累計)	3,540	900	890	623	48.68
通期	7,200	1,800	1,780	1,245	97.30

Point

- ✓ 売上高・利益共に過去最高更新見込み
- ✓ 市場シェア拡大目指し積極投資と採用（採用増と労働分配率も向上方針）
- ✓ 月産7億円（半導体5.5億、FPD1.5億）の生産キャパ実現に注力

設備投資積極化による償却負担増等で中計目標に対し若干利益率下振れ



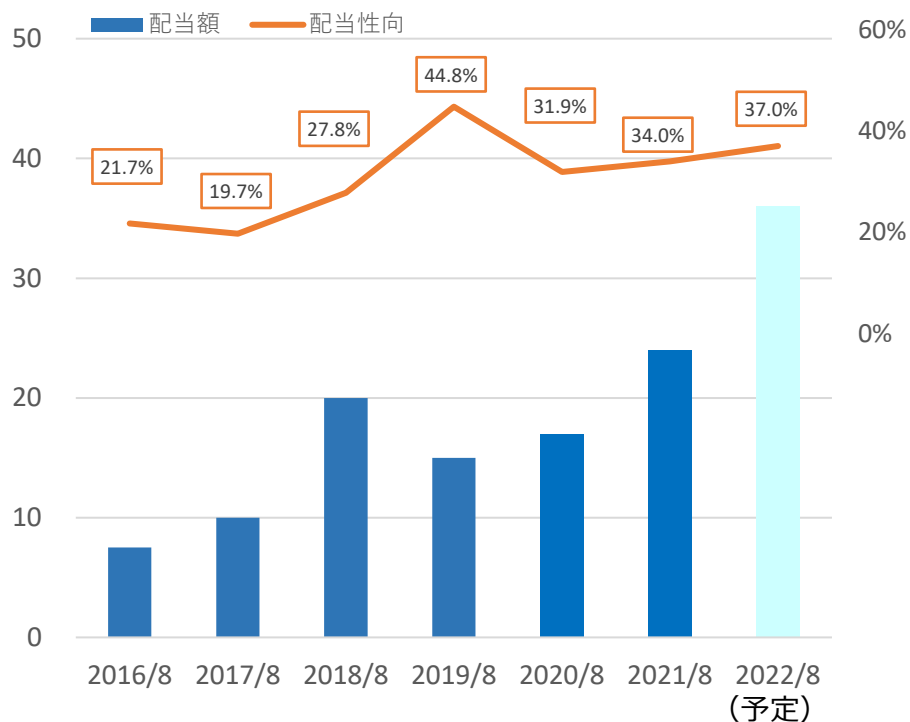
3. 2022年8月期の業績予想

株主還元

配当等

実績と予定

1株当たり配当と配当性向



配当政策

- ✓ 中期事業計画で30%以上の配当性向を予定
- ✓ 最低配当額を年間10円とし、安定配当も意識

株主優待

- ✓ 半年以上継続保有の株主へ1,000円分のオリジナルQuoカード提供

当期配当

- ✓ 2022年8月期は上期18円、期末18円の合計36円/株の配当予定
- ✓ 設備投資続くが、資本効率の向上も考慮し、株主還元も高水準に行っていく方針

4. 中期事業計画「Innovation2022」

数値目標等 計画期間～2022年8月期末

中期事業計画 Innovation2022

数値目標

売上高70億円 営業益20億円



ROIC

資産ベースROIC 18%
負債ベースROIC 14%

配当性向

配当性向 30%以上目標
最低配当額 年間 10円

ESG

サステナブル経営の推進
重要課題への中長期的な取り組み

※本数値は中期事業計画の目標値であり、当期着地見通しはP7の数値通りです

4. 中期事業計画「Innovation2022」

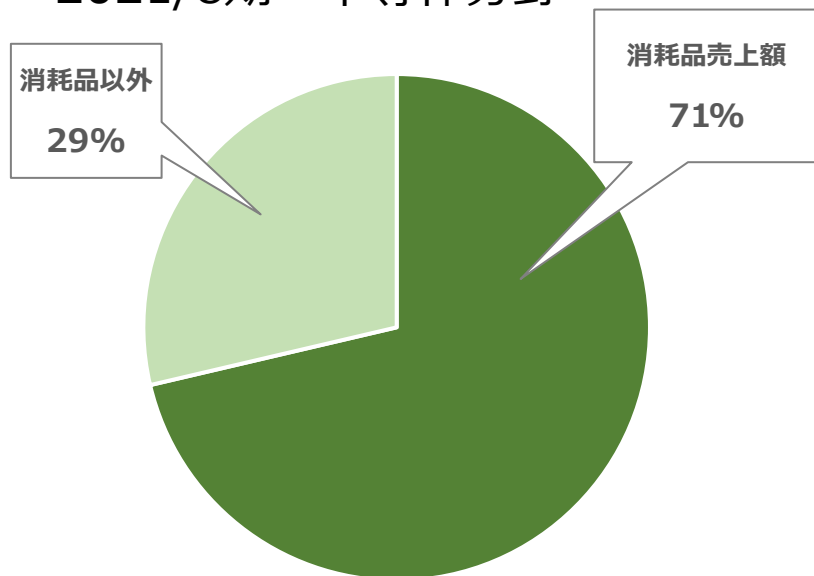
中計目標への戦略

売上高	半導体	<ul style="list-style-type: none">✓市場環境想定 YoYで2021年が36%、2022年が11%✓戦略 シェア拡大✓具体策 既存顧客は生産力拡大でシェア維持 新規顧客分で業界内シェア拡大 ※既存顧客の市場連動による増加のみで能力増強分もひっ迫
	FPD	<ul style="list-style-type: none">✓市場環境想定 2021年中盤から回復し始め2022年は好調維持の見込み✓戦略 自社設備投資は抑制も、拡大したシェアの維持✓具体策 電子ビーム溶接を必要とする真空チャンバーの受注拡大 自社生産能力ひっ迫続く見通しに対し、若干の能力増強と協力企業拡充で対応
費用	製造原価	<p>市場が活性化するなかで、当初中計の売上目標70億円にとどまらず、さらに生産能力を上げてシェアの拡大を狙うため、投資額の上積みと人員採用増加で費用の増加見込み</p> <p>若干利益率を圧迫見込みも、シェア拡大を優先し積極投資継続</p> <p>ROIC目標については、シェア拡大優先し達成先送り</p>
	販管費	<p>ガバナンス向上と働き方改革に関連し人件費の増加</p> <p>新規技術と新規顧客獲得に向けたR&D継続</p> <p>研究開発費は新規顧客からの開発要求にこたえるため1億円程度に増額</p>

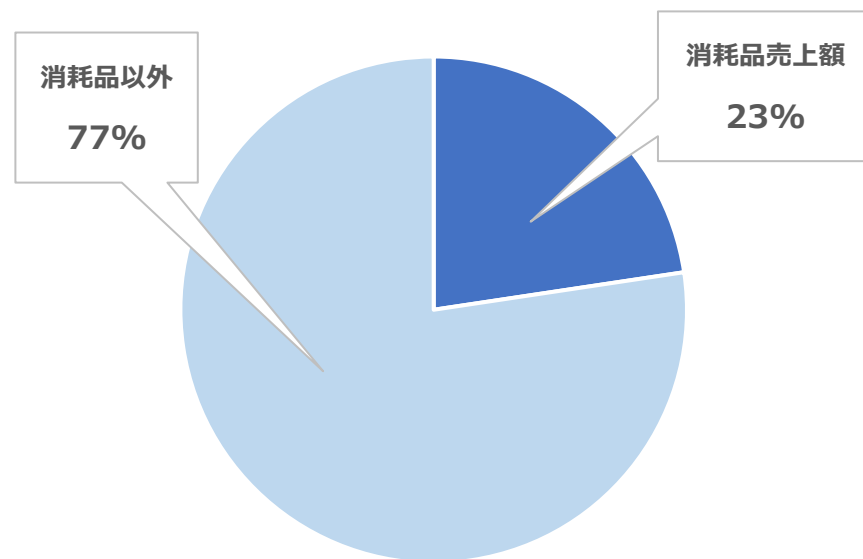
4. 中期事業計画「Innovation2022」

戦略 ～消耗品受注の拡大～

2021/8期 半導体分野



2021/8期 FPD分野



消耗品需要

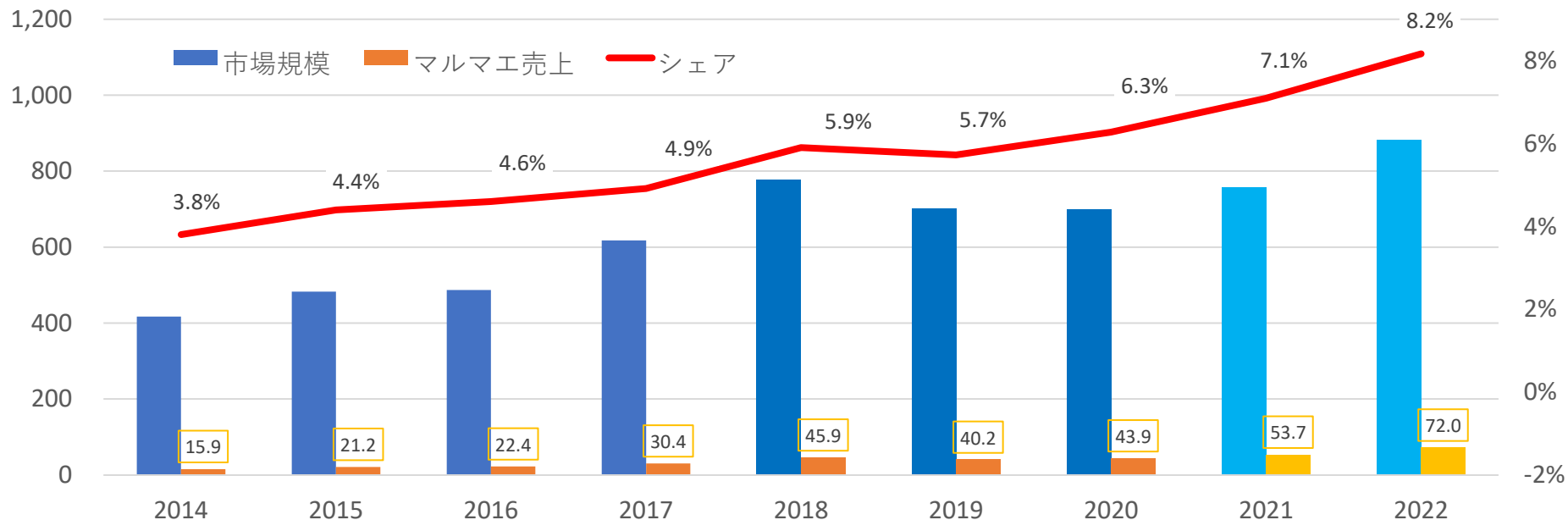
- ✓ 当社は真空パーツの中でも、特に、プラズマにさらされる消耗品の受注に注力しています。
- ✓ 消耗品需要は、大きな変動がある新規装置の需要動向と違い、デバイスメーカーの稼働が上がれば需要が増えることから事業の安定化につながります。
- ✓ 当社の消耗品のくくりには、新規装置に装着あるいは添付される部品も含まれることから、完全な消耗による需要のみではありません。（半導体分野の消耗品は、半分程度が実際の消耗による需要と見込んでいます）
- ✓ 過去3年間で売上高は大きく変化してきましたが、半導体分野消耗品比率はほぼ一定で推移しています。

4. 中期事業計画「Innovation2022」

当社の属する市場とシェア

(単位：億円)

市場規模と当社シェア ※薄い色は当社予測



成長性

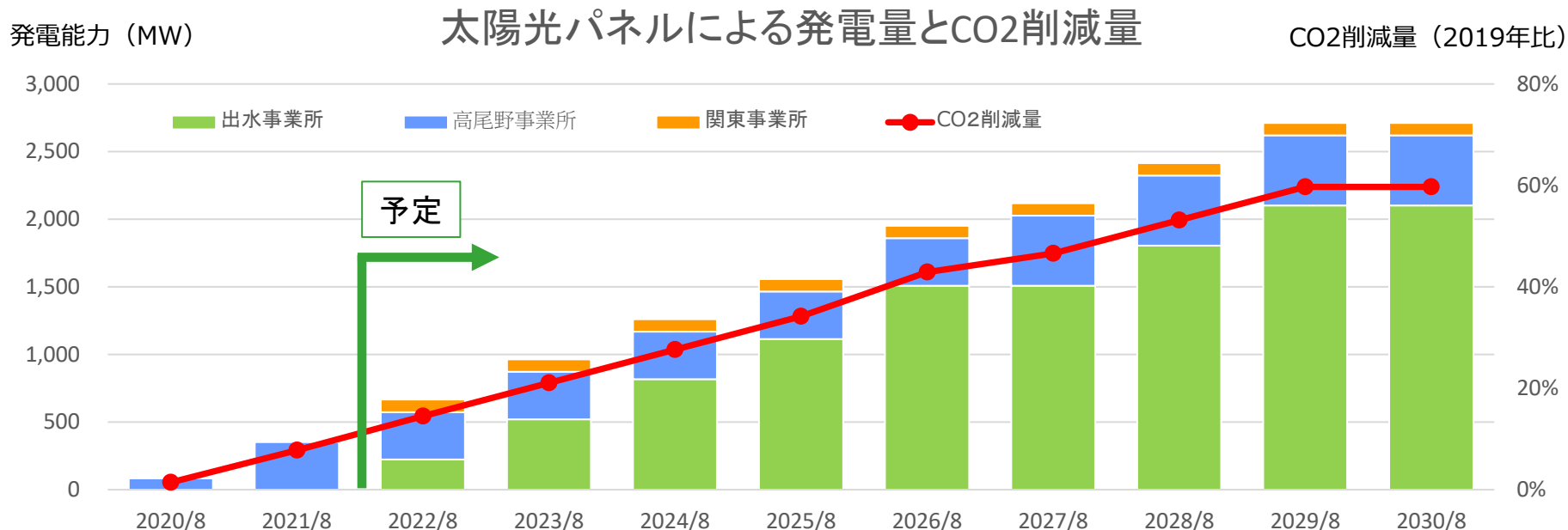
- ✓ 本項の市場規模データは、当社と類似した真空パーツを生産する企業で、当社が認識する一部（当会社30社）の企業について、各暦年に属する決算期末ごとの売上高を調査機関の情報を基に集計したものです。
- ✓ 2021年のデータは、30社中16社が当年度決算未反映のため、類似業者と決算期から推測した予測値となっています。
- ✓ 当社は、属する業界の中でシェア拡大を続けています。要因として、当社の高い試作能力を活かして新規製品の獲得ができていることと、急変動する需要の拡大に対して、柔軟な設備投資と従業員の増員を行って対応できていることが要因だと考えております。

5. ESG経営 Sustainable Management

地球環境への配慮

ESG

再生可能エネルギーによる自社発電でCO2削減



計画：2030/8期まで合計4億円以上の設備投資（50%以上のCO2排出量削減）
 太陽光パネル容量：1.87MW（予定太陽光年間発電量：2,640[MW・h]）
 蓄電池容量：0.60MW

進捗：2021/8期までに累計40百万円の設備投資を実施（7.7%のCO2排出量削減）

※2030年8月期CO2削減目標1,085トン以上
 ※2019年8月期電力使用量：5,124MW・h（CO2換算2,169トン）

2022/8分は発注済み

5. ESG経営 Sustainable Management

気候変動への対応

ESG

カーボンニュートラルへのロードマップ

カーボンニュートラルの実現に向けた
気候変動への取り組み

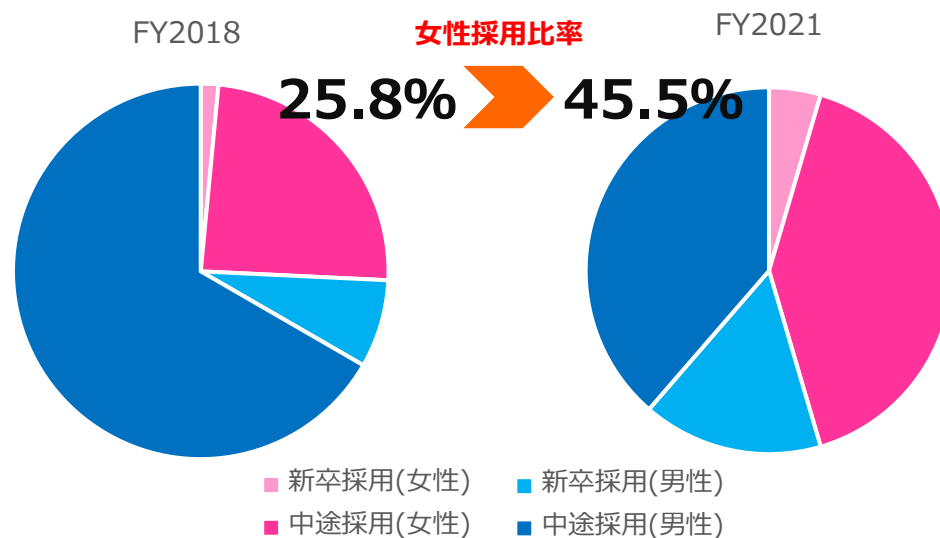
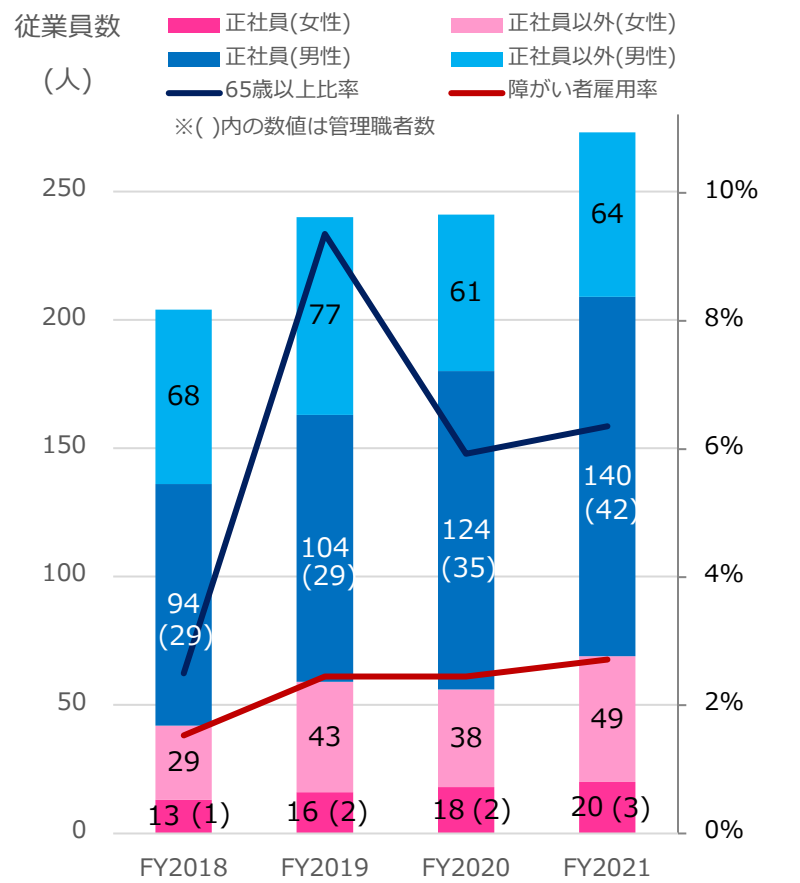


5. ESG経営 Sustainable Management

人材関連指標

ESG

女性採用・登用他、人材方針



取組

- ✓ 女性従業員採用活発化で比率増加
- ✓ 女性管理職候補育成継続
- ✓ 65歳以上を対象にした再雇用制度も活用
- ✓ 障がい者活用も積極化（リハビリ装置等）

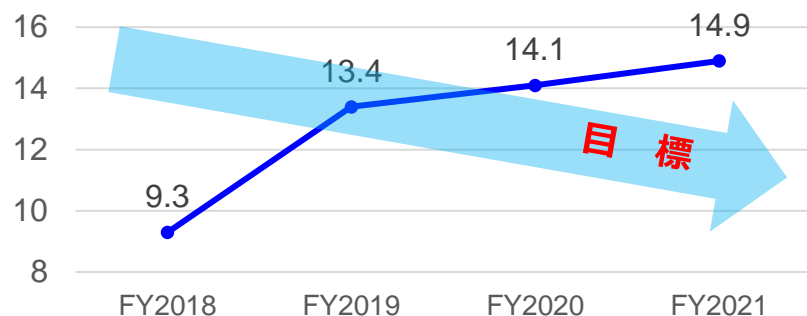
5. ESG経営 Sustainable Management

人材関連指標

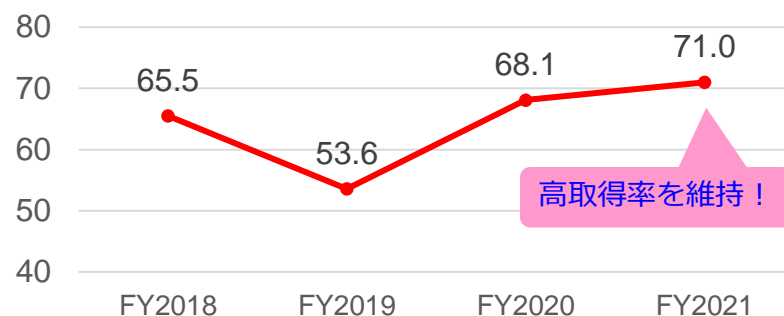
ESG

人材と就業環境の課題と対策等

1ヶ月あたりの平均残業時間(時間)



年次有給休暇取得率(%)



項目	単位	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021
育児休暇取得者数	人	1	3	4	1
介護休職取得者数	人	0	0	0	0
労働災害件数	件	1	5	6	3
うち休業件数	件	0	1	1	0

- ✓ 業務の効率化を図るも、受注拡大による影響で、1ヶ月あたりの平均残業時間が増加傾向（目標は生産性向上で減少）
- ✓ 引き続き、生産性向上や、有給取得の推進に加え、休日数の増加等、各施策の見直し・改善を行う
- ✓ 従業員がやりがいや充実感を感じられ、また、人生の各段階で多様な生き方を選択・実現できる職場作りを目指す
- ✓ 4年分の休業労働災害の内訳は、切れ・こすれ(1件)、転倒(1件)でした。

5. ESG経営 Sustainable Management

ガバナンス

ESG

取締役会構成等の取り組み

取締役人数：9名
うち女性人数：0名
うち社外役員人数：4名



FY2018

取締役人数：9名
うち女性人数：1名
うち社外役員人数：4名



FY2021

項目	単位	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021
取締役人数 (女性比率)	人 (%)	9 (-)	10 (-)	7 (-)	9 (11.1)
社外取締役人数 (社外取締役比率)	人 (%)	4 (44.4)	4 (40.0)	3 (42.9)	4 (44.4)
取締役会開催数	回	23	25	23	20

2022年まで

- 女性役員登用
- 社外役員の増員

達成



2025年まで

- 社外役員過半数実現
- 経営経験者の増員
- 取締役会の多様性推進

- ✓ 社外比率向上で監督型取締役会の強化
- ✓ 多様性をESG経営に活かす取り組み
- ✓ 利益連動報酬で短期的利益と役員報酬連動
- ✓ 株式報酬で役員の長期的な視点の醸成

私達は持続可能な経営を念頭に
技術で社会貢献できる企業を目指します

注意事項

本資料に掲載された情報、及び、口頭によって説明された実現していない内容に関しては、ある一定の仮定の元に予想された見通しであり、マルマエ経営陣の判断など不確実要素を含んでおります。

本資料は、株主・投資家などの皆様にマルマエの現況と経営方針をご理解いただくために作成されたものであり、利用者に対して、当社株式の購入・売却など直接的な投資判断を提供するものではありません。投資に関する責任は負いません。

数値などの情報には注意をはらっておりますが、掲載の内容については未監査の数値も多く、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報、またはその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料に関するお問合せ先

株式会社マルマエ 管理本部総務課 IR担当

ir@marumae.com

TEL 0996-68-1140 FAX 0996-68-1151

Company Profile

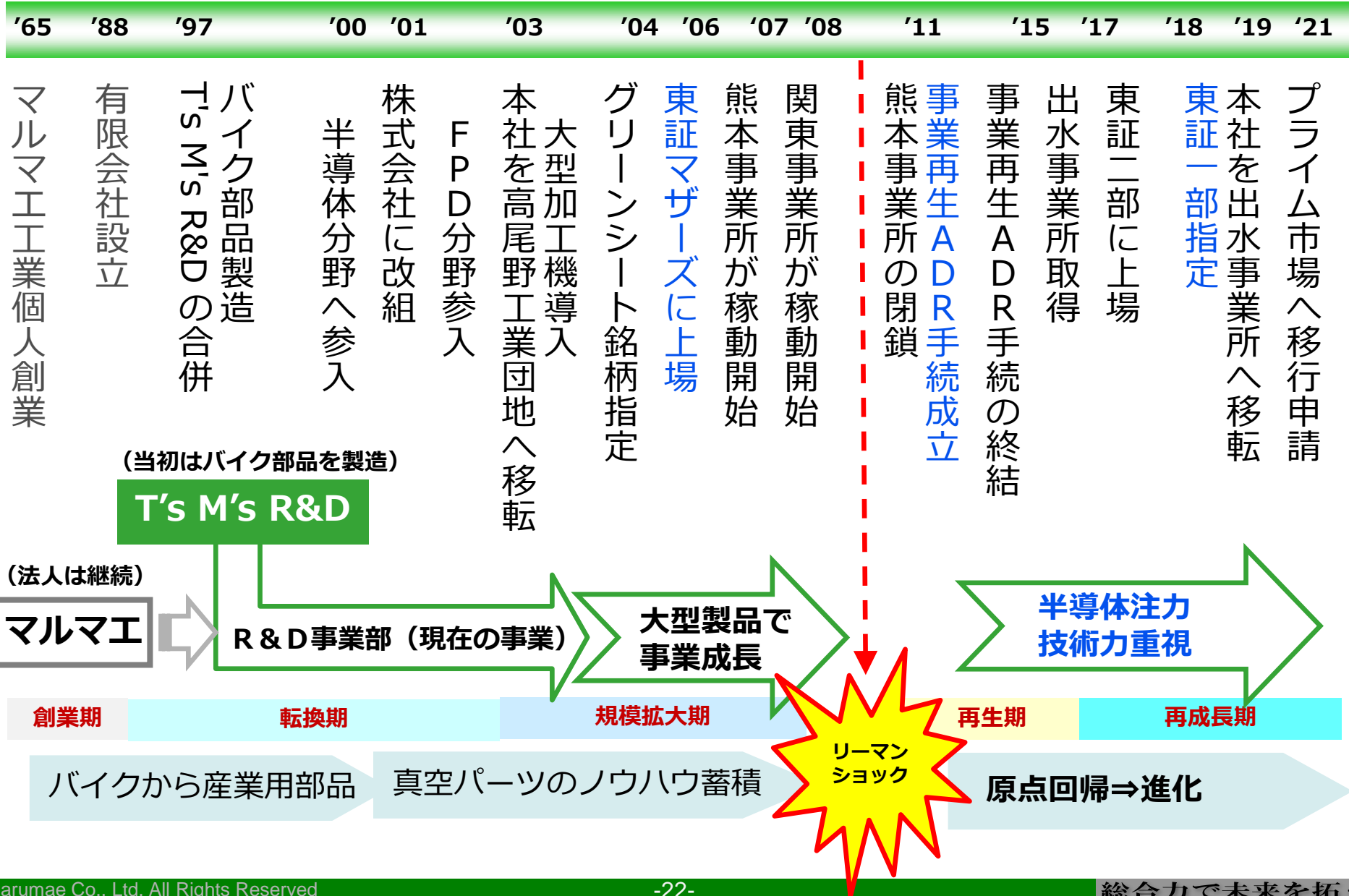
企業情報

参考資料（現事業の始まり）

現在の事業はレース活動から始まりました

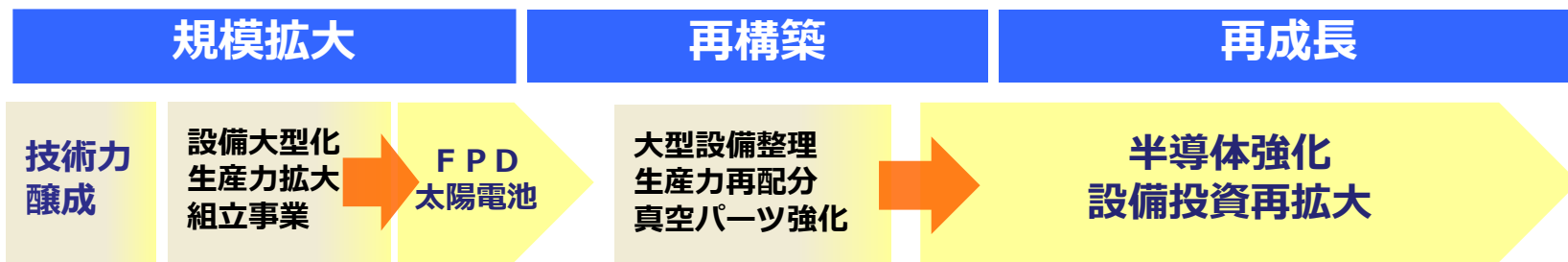
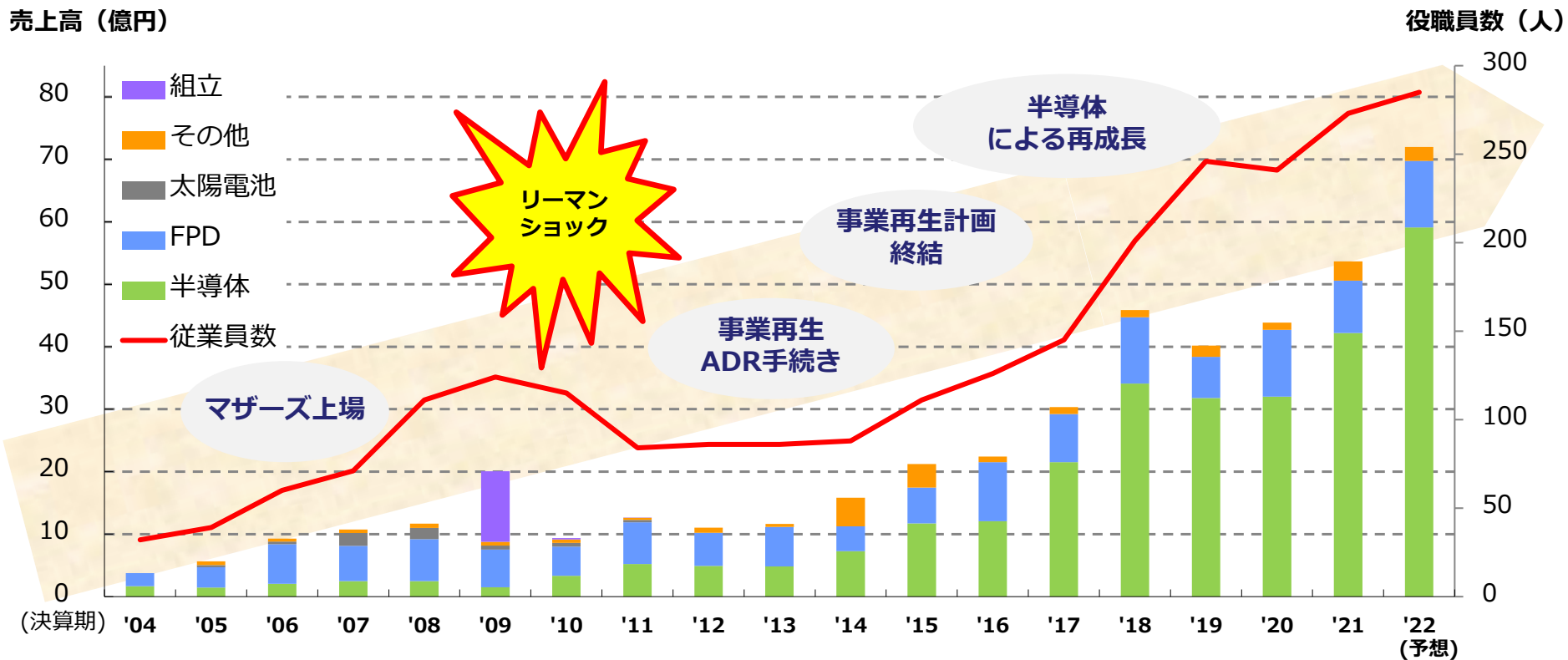


参考資料（沿革と事業変遷）



参考資料（沿革と事業変遷）

事業成長と成長ドライバー



参考資料（現在の事業内容）

当社製品は世界中で半導体・液晶製造装置の心臓部を支えています

主要工程

エッチング
CVD
コータ/デベロッパ
スパッタ
枚葉洗浄
アッシング
ウエハーボンディング
イオン注入
アニール

主要製品

真空チャンバー
シャワーヘッド
排気板
静電チャック
ヒーター類
上部電極
ターゲット
搬送系パーツ類
各種真空パーツ類

※画像はイメージです

参考資料（会社概要）

会社名	株式会社マルマエ（Marumae Co., Ltd.）
設立	1988年10月
資本金	12億4,115万円（2021年8月31日現在）
役員	代表取締役社長 前田 俊一 取締役 海崎 功太 取締役（監査等委員） 兒島 吉二 取締役 安藤 博音 取締役（監査等委員） 外西 啓治 取締役 門田 晶子 取締役（監査等委員） 桃木野 聡 取締役（監査等委員） 山本 隆章 取締役（監査等委員） 宮川 博次
従業員数	273名 うち 臨時雇用者等 113名（2021年8月31日現在） 他 派遣社員40名
所在地	出水事業所 〒899-0216 鹿児島県出水市大野原町2141番地 高尾野事業所 〒899-0401 鹿児島県出水市高尾野町大久保3816番41 関東事業所 〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町2-17-15
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・精密機械、精密機器の設計、製造、加工 ・精密機械部品の設計および製作 ・産業および医療機械器具の設計、製造、販売 ・ソフトウェアの開発、販売 ・製缶工事 ・配管工事 ・運送業務 ・不動産の賃貸
経営理念	<ul style="list-style-type: none"> ・技術は究極を目指し ・競争と協調を尊び ・技術注力企業として社会に貢献する <p>経済を支える“モノづくり”の中で、モノづくりの源流である部品加工にこだわっていきます。そして、さまざまな分野で総合メーカーを支えられる企業となるために先端技術と供給力を持つ部品加工のリーディングカンパニーを目指します。</p>

発行済株式総数	13,053,000株	
単元株式数	100株	
株主総数	9,684名	
大株主 (普通株式)	前田 俊一	4,819,000株
	前田 美佐子	504,000株
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	417,700株
	川本 忠男	219,500株
	STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	209,400株
	SMBC日興証券株式会社	185,100株
	前田 良子	180,000株
	株式会社日本カストディ銀行（信託口）	172,300株
	五十嵐 光栄	168,000株
	マルマエ共栄会	136,400株
（注）自己株式が250,196株あります。 （2021年8月31日現在）		